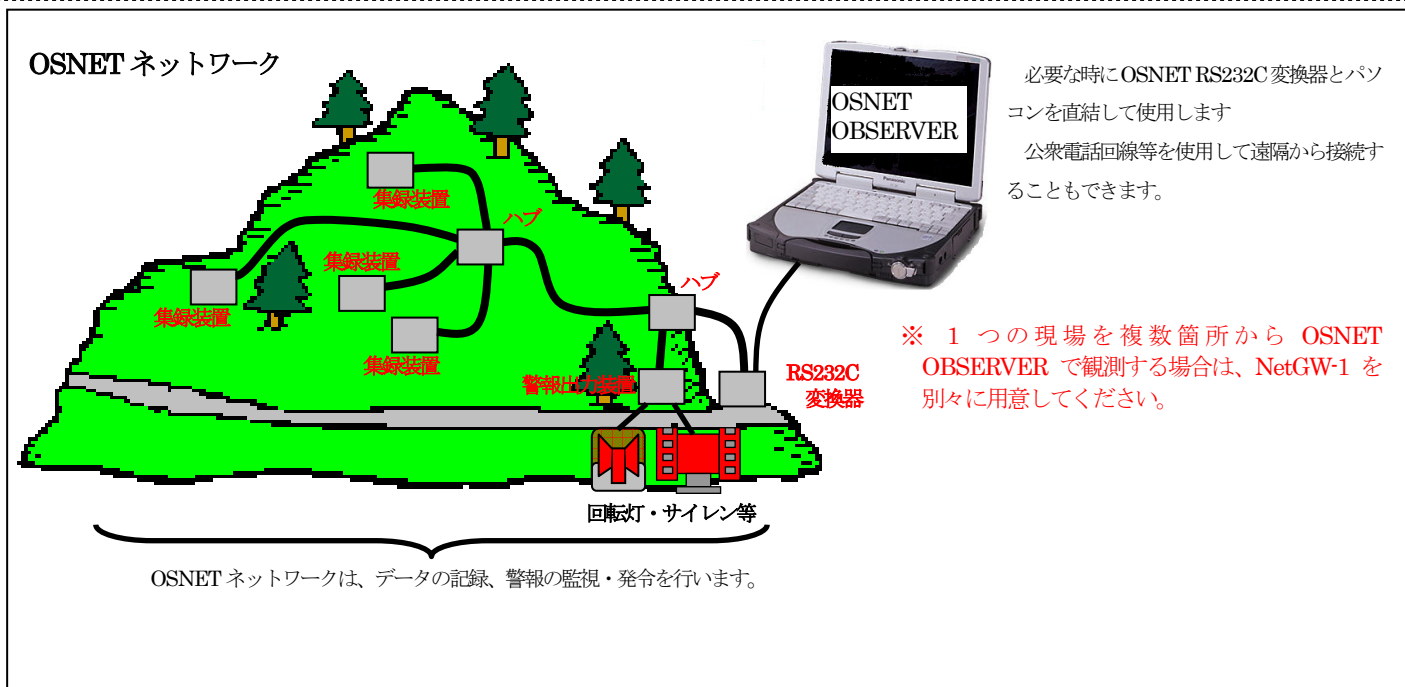


概要

本ソフトウェアは、現場のOSNETネットワーク内のデータ集録装置を、現場または遠隔地より自動観測するためのソフトウェアです。



動作環境

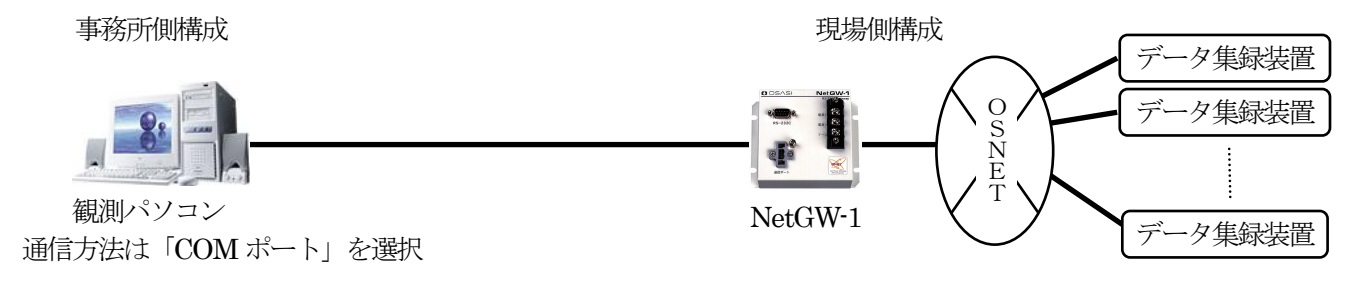
- コンピュータ本体**
Windows2000、WindowsXP、Windows2003Server、WindowsVista、Windows7 の 32bit 版 OS が正常に動作するコンピュータ。
24 時間稼働の FA パソコン等、長期運用可能なパソコンを推奨します。
- ソフト**
NET Framework 2.0。ヘルプファイルの表示には電子文書閲覧ソフト (アドビシステムズ社 Adobe Acrobat Reader) が必要です。
- CPU**
Pentium4 相当以上の CPU。
- ハードディスク**
1GB 以上の空き容量。
- メモリ**
Windows2000、WindowsXP、Windows2003Server の場合、最小 512MB、推奨 1GB 以上。
WindowsVista Home Basic の場合、最小 1GB、推奨 1.5GB 以上。Ultimate、Business、Home Premium の場合、最小 1.5GB、推奨 2GB 以上。
Windows7 の場合、最小 1.5GB、推奨 2GB 以上。
※現場数・機器構成が多いほど、必要メモリは多くなります。 ※必要メモリはシステム環境により異なる場合がありますので、ご注意ください。
- ディスプレイ**
1024×768 ドット以上の解像度。
- モデム (モデム接続をする場合)**
公衆回線等を利用して通信する場合、モデムが必要になります。(推奨モデム: OMRON 製「ME5614D2/E2」) ※すべてのモデムでの動作は保障していません。
- USB シリアル変換ケーブル (COM 通信で観測する場合)**
パソコン本体にシリアルポートが内蔵されていない場合、モデムまたは NetGW-1 との接続には USB シリアル変換ケーブルをご使用ください。
(推奨ケーブル: Arvel「SRC06-USB」) ※ご使用のパソコンと USB シリアル変換ケーブルの組み合わせによっては正常に動作しない場合があります。
- メール環境 (メール接続をする場合)**
送信プロトコル SMTP、受信プロトコル POP3/IMAP4 に対応したメール環境が必要。 ※SSL 認証にも対応。

主な機能

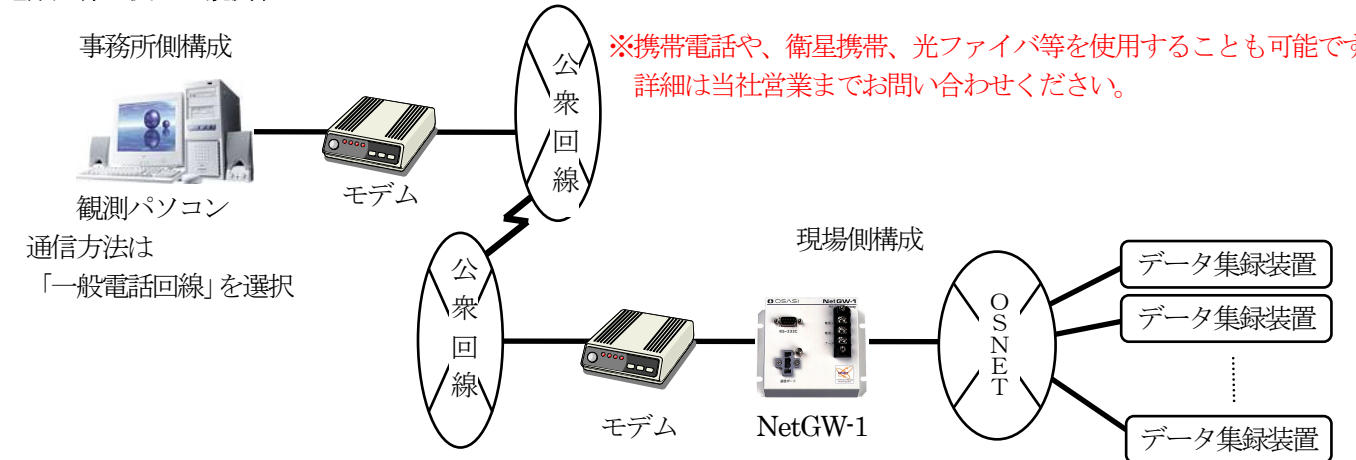
OSNET OBSERVER は現場または遠隔地より、指定した観測間隔 (「5 分」「10 分」「20 分」「30 分」「1 時間」「2 時間」「3 時間」「6 時間」「12 時間」「1 日」) で自動観測を行います。
OSNET OBSERVER は設定された自動観測間隔でポーリング式に自動観測を行い、集録装置から取得した「観測値」「警報設定値」を基に警報発令を行います。また、任意観測ボタンを押すとその時の観測値を取得します。
OSNET RS232C 変換器「NetGW-1」の代わりに、OSNET ネットワーク無線機「NetMI-P/C」を使用することもできます。ただし、無線機経由では通信時間が長くなります。
注意) 警報判定は観測時に行います。(観測間隔が 1 時間の場合は 1 時間毎に行います) そのため、集録装置で発令する警報とは、連動していません。
注意) 1 度の観測にかかる時間は、ご使用の PC の性能、通信手段、通信距離、回線の状態、データ集録装置の数などによって変動します。

システム構成例

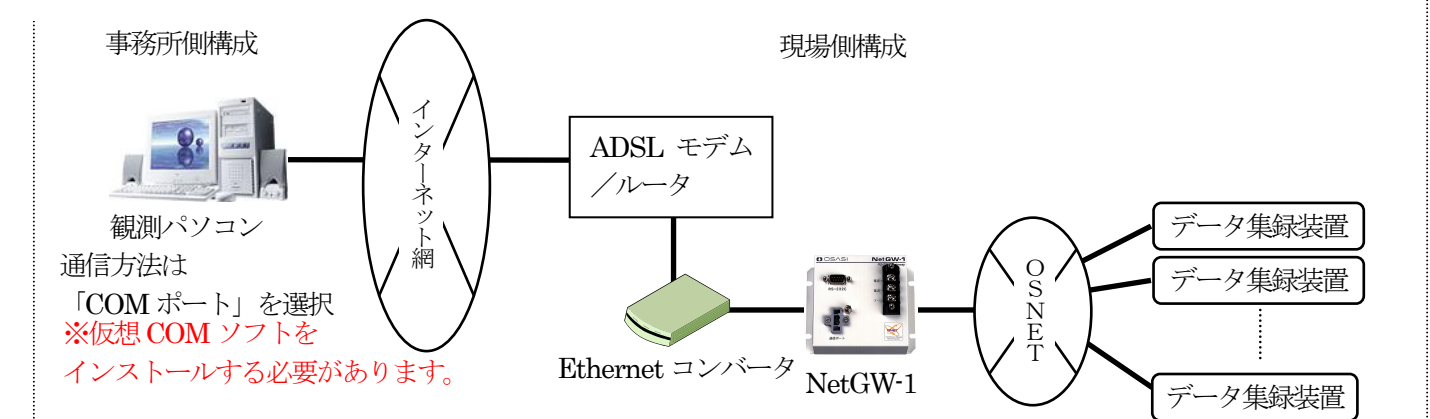
●RS232C クロスケーブルで直接接続して観測する



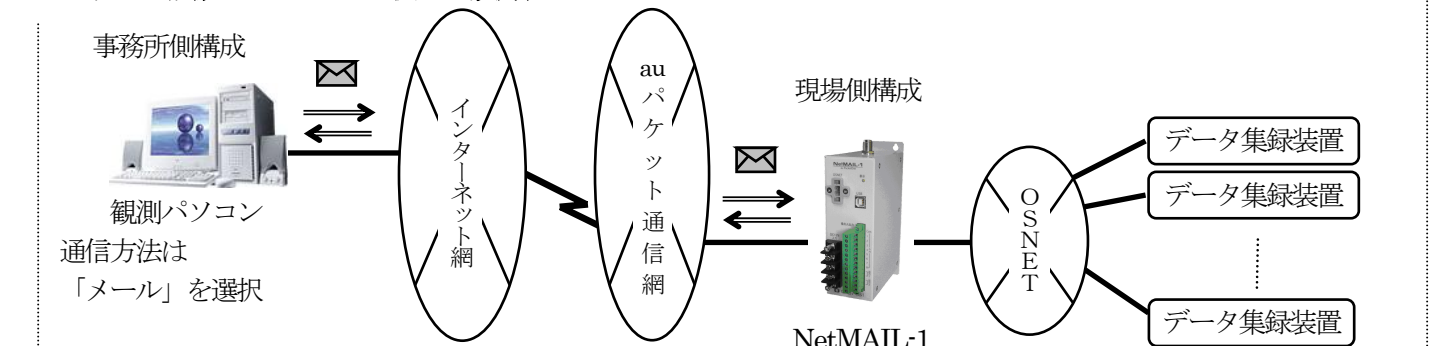
●電話回線を使って観測する



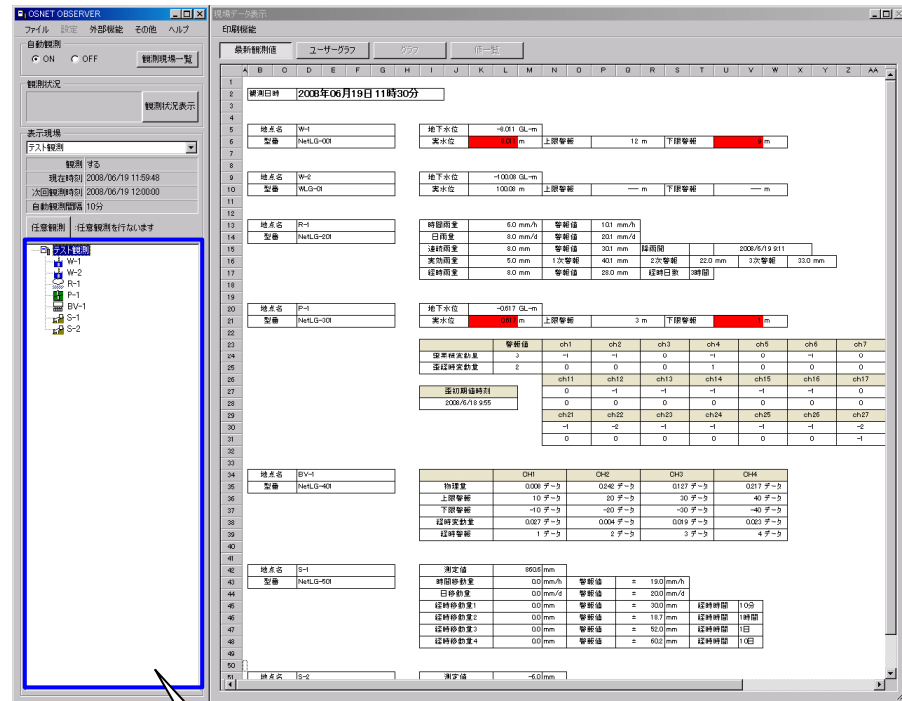
●インターネット経由で観測する



●パケット通信機 NetMAIL-1 を使って観測する

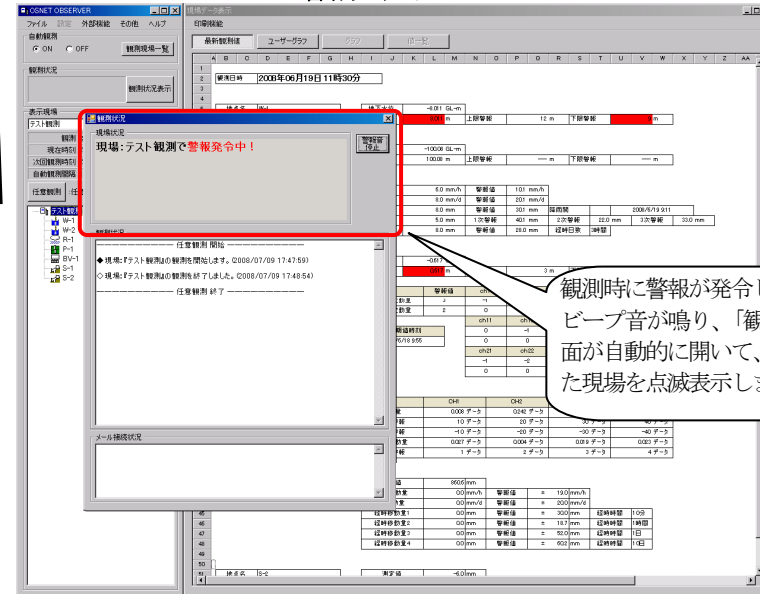


観測画面



観測値が警報値を超えた時

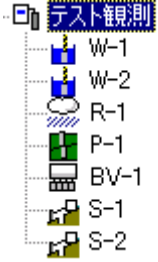
<警報発令時>



警報発令時は、最新観測値画面の該当する値が赤く表示されるとともに、警報ビーブ音が鳴ります。警報ビーブ音を止める時は、「観測状況」画面の「警報音停止」ボタンを押してください。また、別売オプションの USB 接点出力ターミナル等を使用すると、警報発令時に事務所のパトライトを回す、なども可能です。詳細は当社営業までお問い合わせください。

観測時に警報が発令した時は、ビーブ音が鳴り、「観測状況」画面が自動的に開いて、警報発令した現場を点滅表示します。

ツリー表示:
表示現場の機器をツリーで表示します。



ツリーで現場をクリック

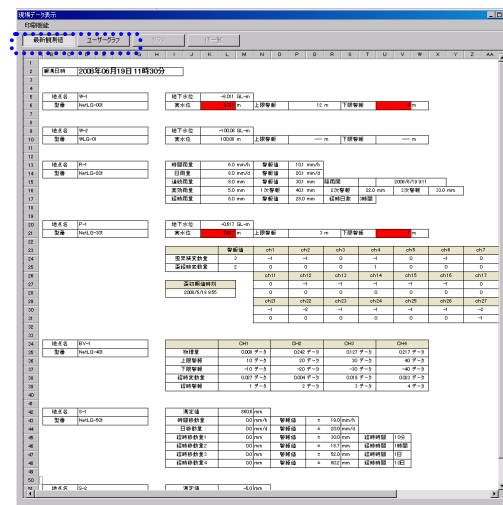
ツリーで機器をクリック
(機器『NetCM-1』の場合)

機器の「カメラ画像」画面



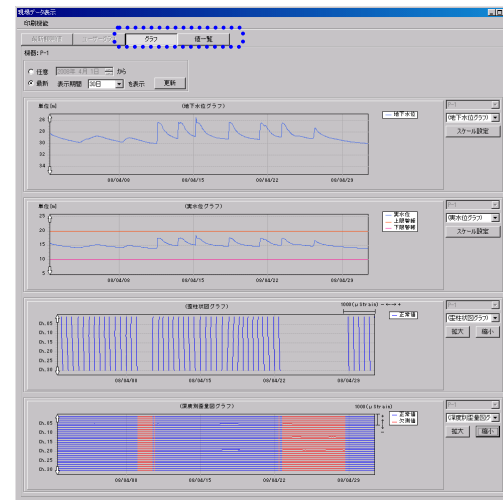
OSNET カメラの撮影画像を表示します。機器『NetCM-1』専用の画面です。

現場の「最新観測値」画面



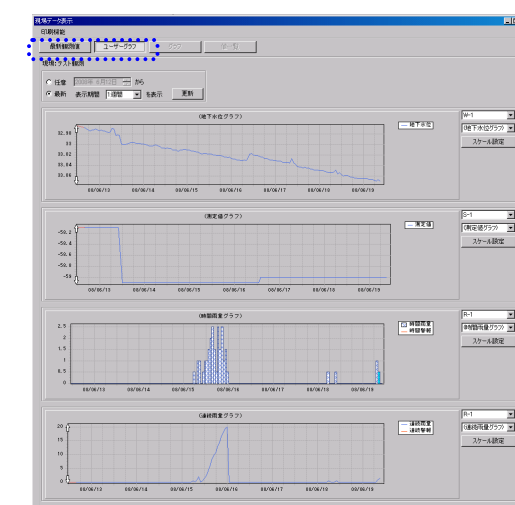
現場に登録した全機器 (機器『NetCM-1』を除く) の最新観測値を表示します。警報発令時には、その項目が赤く表示され、一目でわかります。

機器の「グラフ」画面



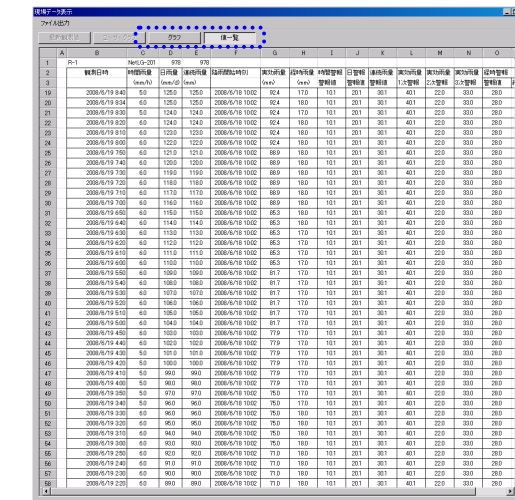
機器の観測データをグラフ表示します。表示グラフは機種ごとに異なります。

「ユーザーグラフ」画面



複数の機器のグラフを同時に表示できる画面です。水位・雨量・伸縮の相関をみたい場合等に使用できます。

機器の「値一覧」画面



取得している観測データを一覧表示します。表示項目は機種ごとに異なります。

ユーザーグラフ
ボタンをクリック

最新観測値
ボタンをクリック

値一覧
ボタンをクリック

グラフ
ボタンをクリック

外部ソフトの起動

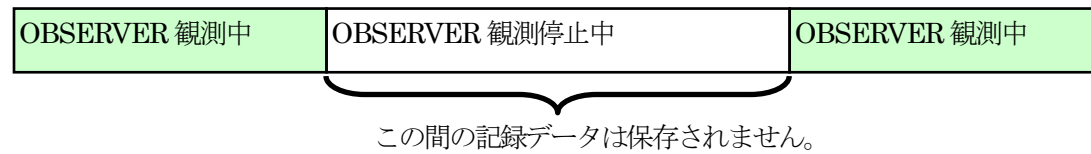
OSNET OBSERVER は、観測時に集録装置の記録データを取得し保存しています。記録データは弊社製ソフトウェア「D-Station」で処理し、作図・作表を行なうことができます。また、弊社製ソフトウェア「OSNET サポータ」を使用すると集録装置の設定・集録装置の全データ回収が行えます。メイン画面のメニュー「外部機能」から起動が可能です。



これらのソフトウェアを合わせてご購入いただくと、さらに統合した運用が可能です。

OSNET OBSERVER から D-Station を起動する際の注意点

OSNET OBSERVER は観測停止中の記録データのリカバリーは行いませんので、記録データは OSNET OBSERVER 起動中のみ保存されます。したがって、欠測無しで記録データを残したい場合は、OBSERVER を連続動作させる必要があります。



注意) OBSERVER での記録データ間隔

- ・ 10 分間隔で観測する場合は、10 分間隔で記録します。
- ・ 1 時間～1 日の間隔で観測する場合は、観測時刻のデータのみ回収・記録します。ただし、「1 時間毎データを回収する」設定にすれば、1 時間間隔のデータを回収・記録します。

グラフ表示

機器種別	表示グラフ
NetLG-001、WLG-01	実水位、地下水位
NetLG-201	時間雨量、日雨量、連続雨量、実効雨量、経時雨量
NetLG-301	実水位、地下水位、歪柱状図(ch30 から累積)、深度別歪累積変動図
NetLG-401	物理量 (ch1～4)、経時変動量 (ch1～4)
NetLG-501	時間移動量、日移動量、総移動量、経時移動量 1～4
SLG-30	時間移動量、測定値
SLG-100	時間移動量、日移動量、総移動量、経時移動量
NetLG-102、NetLG-104	物理量、経時変動量 1～4

警報監視項目

機器種別	監視する警報値
NetLG-001、WLG-01	水位上限警報、水位下限警報
NetLG-201	時間雨量警報、日雨量警報、連続雨量警報、実効雨量 1 次警報、実効雨量 2 次警報、実効雨量 3 次警報、経時警報
NetLG-301	水位上限警報、水位下限警報、歪経時警報、歪累積警報
NetLG-401	物理量上限警報、物理量下限警報、経時警報
NetLG-501	時間移動量警報、日移動量警報、経時警報 1～4
SLG-30	時間移動量警報
SLG-100	時間移動量警報、日移動量警報、総移動量警報、経時警報
NetLG-102、NetLG-104	警報 1～4 (それぞれ上限警報、下限警報、経時警報のいずれか)

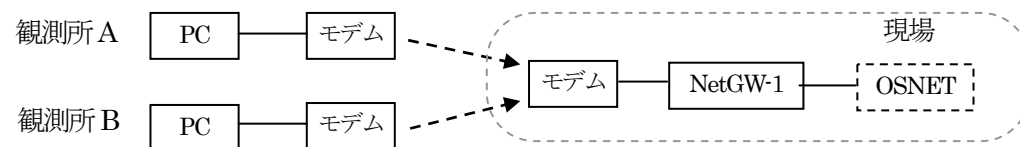
※OSNET OBSERVER は、集録装置に設定されている警報値を取得し、警報判定します。

※機器『 NetCM-1 』は、OSNET カメラの撮影画像を表示します。グラフの表示や警報判定は行いません。

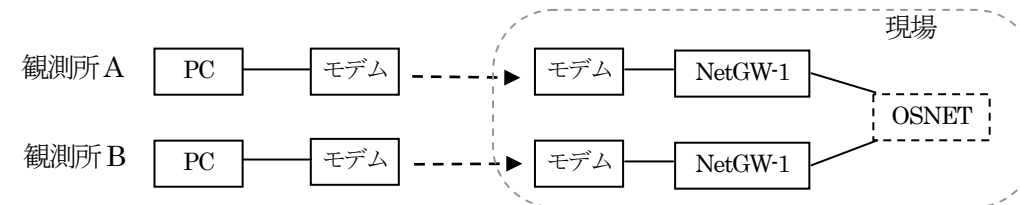
注意点

1 つの現場を複数箇所から監視する場合

同一現場に複数箇所からアクセスする場合、現場の NetGW-1 と電話回線が 1 つだと、通信がぶつかります。そのため、後からアクセスした方は、回線が話中のため欠測してしまいます。



そのため、現場側の NetGW-1 は、各観測所に別々に用意してください。この場合は同時にアクセスしても、回線が違うので問題ありません。



やむをえず NetGW-1・電話回線が 1 つの現地に、複数箇所からアクセスして観測する場合は、2 日目以降の観測 PC では「観測時刻 Wait」を設定し、自動観測を始める時刻を必要な時間だけ遅らせてください。ただし PC の時刻も徐々にずれていくので、基本的には、現地の NetGW-1、電話回線は各観測所に別々に用意することを推奨します。

安定運用のために

一般的な PC は、長期間連続運用できるようなっていません。

自動観測システムを安定して運用するために、2 週間～1 ヶ月に 1 度、定期的に Windows の再起動を行なってください。